

『南山経営研究』執筆要領

1. 使用言語：言語は日本語または英語とする。
2. 論文の長さ：日本語の場合は25,000字以下、英語の場合は12,000語以下を目安とする。
3. 表紙：投稿原稿には表紙をつける。表紙には、「原稿の種類」、「題名」、「著者名と所属機関」、「連絡先」を記載する。
4. 本文：本文は2ページからとし、2ページ目のはじめに、「題名」、「要旨」（100字前後）および「キーワード」（5つ以内）を記載し、続けて本文を始める。本文に著者名を記入してはならない。頁番号は、この2ページ目を第1頁とする（表紙は頁数に含めない）。和文の読点は全角「、」句点は全角「。」に統一する。
5. 見出しの符号：見出しの番号は、以下のようにする。
 1. ○○○○
 - 1-1. △△△△
 - 1-1-1. □□□□
6. 図表：必ず図と表に分け、図には「図1」、「図2」、……、表には「表1」、「表2」、……、のようにそれぞれ通し番号を付け、タイトルを付ける。本文中に、図表の挿入場所を番号で明記する。
7. 数式の番号：数式番号は通しで付ける。なお、数式の展開や証明などで、本文だけで分かりにくいと思われるときには、査読の便宜のため、本文と別にAppendixを記載する。
8. 注：脚注とする。
9. 参考文献：参考文献は、次の要領に従い末尾に一括して記載する。
 - ・通し番号は付けない。
 - ・欧文文献と和文文献に分け、欧文文献、和文文献の順に記載する。
 - ・欧文文献は著者名のアルファベット順に並べる。
 - ・和文文献は著者名の50音順に並べる。
 - ・各文献は、「著者名（発行年）、題名、出版社名あるいは雑誌名」の順に記す。
 - ・本文および脚注で参照する場合には著者名（発行年）の形で記し、書名、論文名等は記さない。複数著者の場合は、例えばHeath/Jarrow/Morton（1990）と、スラッシュ「/」で著者を区切って記載する。
 - ・和文文献の題名は、書籍の場合は『』でくくり、雑誌論文の場合は「」でくくる。雑誌論文の雑誌名は『』でくくる。

- ・欧文文献の題名は、書籍の場合はイタリック（斜体字）とし、雑誌論文の場合は“ ”（ダブル・クォテーション）でくる。雑誌論文の雑誌名はイタリック（斜体字）とする。
- ・同一著者による同一発行年の参考文献については、文献の欧文・和文にかかわらず、発行年に、a, b, c……を付けて区別する。

〔例示〕

Berle, A. A., and G. C. Means (1932), *The Modern Corporation and Private Property*, Commerce Clearing House, New York.

Modigliani, F. and M. H. Miller (1958), “The Cost of Capital, Corporate Finance, and the Theory of Investment,” *American Economic Review*, Vol. 48, No. 3, 655–669.

Heath, D., Jarrow, R. and A. Morton (1990), “Bond Pricing and the Term Structure of Interest Rate: A New Methodology for Contingent Claim Valuation,” *Econometrica*, 60, 77–105.

神戸一郎（1991），『経営財務の理論』，経営財務出版社。

東京二郎（1987a），「経営財務研究学会の歩み」，『現代ファイナンス』，No. 1, 15–25 頁。

東京二郎（1987b），『経営財務論発展史』，経営財務書房。

- ・なお、学術分野における多様性を考慮し、それぞれの学術分野において、標準的とされる引用形式及び参考文献の表記方法を用いることとする。

10. ワードプロ・ソフト：原稿はワードプロ・ソフトで作成する。ワードプロ・ソフトの種類は問わないが、Microsoft Word か Tex が望ましい。表紙と本文は別のファイルとし、いずれのファイルについても、プロパティから個人情報を消去すること。

11. 図表：図表については、原則としてあらかじめ本文に挿入すること。本文と分けて作成する場合には、本文に挿入場所を明示すること。

12. 原稿の送付：原則として、電子メールで原稿を送付する。